

誹謗中傷といじめ

高一

インターネットは、今の時代には欠かせないほど日常に浸透しています。私も毎日のようにSNSや動画サイトなどを利用しています。便利な反面、使い方によっては犯罪に巻き込まれるなどの怖い一面もあります。

私が入学について考えたときに、一番に思いついたのがSNSでの誹謗中傷についてでした。度重なる誹謗中傷に傷つき、自ら命を絶ってしまった人を何人もニュースなどで目にしました。匿名なのをいいことに心ない言葉で攻撃されたり、毎日のように不特定多数の相手から中傷されたりしたら誰だって辛くて嫌な思いをします。また、誹謗中傷されている本人ではなくても、誹謗中傷されている人を見て嫌な気持ちになり、心配する人もいます。匿名とは個人のプライバシーを守るためにあるのであって、人を傷つけるための道具ではありません。コメントをする前に「自分のこのコメントは誰かが傷つかないだろうか。」

「本当に言っても大丈夫なのか。」と一度考えてから、発信してほしいです。

私の好きなインフルエンサーは誹謗中傷について「スマホで見たらデジタル文字だけど凶器になる。」という言葉を残しています。私も本当にその通りだと思っています。言葉で人を殺すことができるということをインフルエンサーがより多くの人に広めて、多くの人が理解してほしいと思います。自分にそんなつもりはなくても自分の言葉で誰かを傷つけてしまう可能性があるため、私も改めて、発言には気を付けて過ごそうと思いました。そして、自分がされて嫌なことはせず、その人の立場になって考えようと思います。

SNSも含めた誹謗中傷に関する問題において、私たちに最も身近なものはいじめです。いじめとは、物理的な暴力の他に、言葉の暴力や目に見えないところで発信される悪口など、様々なものがあります。いじめによって、今でもつらい思いをしている人が世の中にたくさんいます。

私も、小学生の頃いじめを受けていたことがあります。仲がよかった子に急に無視されたり、仲間外れにされたりして、当時は本当につらかった

記憶があります。仲がよいと思っていたのに、なぜ急にこのようなことをするのだろうと疑問を抱きました。今はその子とは仲よくしていますが、世の中でいじめを受けた人の中には、人間不信になって家から出られなくなったり、トラウマになったりして人生を狂わされてしまう人が数多くいます。また、加害者としての自覚がある人、ない人、被害人としての自覚がある人、ない人など様々です。いじめは、人の人生を奪ってしまうだけではなく、自分が犯罪者になってしまうこともあります。そのため、大切なことは、相手も自分と同じ人間であるということをお忘れないということだと思います。

子供も大人も人種も性別も関係なく、人として一人一人が自分の言葉や行動の責任の重さを常に考え、言動を選ぶことが人権を守ることにつながるのではないのでしょうか。